

令和5年度 自己評価・学校関係者評価報告書

学校法人塚本学院
大阪芸術大学附属照ヶ丘幼稚園

1－1. 教育方針

○ゆとりある環境・ゆとりの保育

幼児のところに育って欲しいと願っていることは、自分の力を信じて、何にでも挑戦してみようという積極性や意欲です。家庭から幼稚園という大きな集団に入り、その中で先生や友だちと一緒に力を合わせて取り組むと楽しいという充実感、頑張ってやり遂げた時の達成感を得ることが『生きる力と思いやりの心を育てる』基礎になります。

それは他者から強制されるものではなく、幼児が自らの関心や興味をもった中から培われていくものです。そのためには、豊かな環境を提供することが園の役割と考えています。豊かな環境とは、充実した設備と情緒豊かな保育者との人的環境、学びごたえのある学習環境です。

これらを踏まえ、遊びを通して幼児期に必要な体験、とりわけ「本物に直接触れる」経験を大切にしたい教育を目指しています。

1－2. 教育目標

○「生きる力」と「思いやりの心」を育てる

- ・楽しく生活する中で、きまりの大切さに気づき、守ろうとする。
- ・人と物の関わりの中で、自らを発揮し、考えたり試したり工夫したりする。
- ・周囲のさまざまな環境に好奇心や探求心を持って関わり、意欲的に活動する。
- ・協力することの大切さや、他者の心情を感じ取ったり、お互いの心情をぶつけ合ったりすることで得られる共感性を育む。

2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画をもとに設定した学校評価の具体的な目標や計画

- 1 教員一人一人の資質や指導力の向上を目指すとともに、養成校としての役割と使命を持つ。
 - ① 定期的な学年会議、職員会議を行い職員間の交流の中で自らを振り返る機会を持つ。
 - ② 実習に来る学生一人一人に寄り添いながら指導・育成を行う。
 - ③ 研修への参加や年度末に自己評価を行うなど教員の資質の向上を目指す。
- 2 安全管理における環境や、健康管理の対策への取り組み
 - ① 園児の健康観察及び予防に努める
 - ② 園全体における感染症対策の徹底
 - ③ 園全体における安全対策の徹底
- 3 地域の子育て支援拠点の充実
 - ① おやこ教室の開催日程や内容を積極的に地域に発信し、PRに努める。
 - ② 園庭開放に来た保護者への相談、支援を行う。

3. 評価項目の達成および取組状況

評価項目	結果	理由
1 ①定期的な会議	A	毎日、子どもたちの様子や出来事、保育の進め方、また保護者からの意見や相談等を職員全員で話し合い、より良い保育が行えるように努めた。
②実習生の育成	A	短大生、芸大生、通信教育部生、卒園児（他校生）等の実習を受け入れ、指導方針を職員間で共有しながら学生それぞれの個性に対応し、適切な育成ができた。
③研修や自己評価による 教員の資質向上	B	園外研修への参加や、附属4園で研究発表を行うなど、学びの機会を多く持ったが、職員間で伝え合い共有する時間を持ってない時もあった。又、年度末には自己評価を行い、保育内容を振り返ることが出来た。
2 ①園児の健康観察	A	登園時に健康観察を実施し、保育中の様子を観察する中で体調の変化が見られた時は保護者に連絡をしたり降園時に伝えたりしている。
②感染症対策	A	・新型コロナウイルスの2類から5類への移行に合わせた対応 ・職員室、トイレ、保育室、などに消毒液の設置 ・うがい、手洗いの推進 ・定期的な遊具や玩具、机やいすの消毒 ・清掃の方による階段の手すり、扉などの随時消毒
③安全対策	A	・総合遊具の安全点検 ・警備員の常駐と防犯カメラの設置 ・登降園時や体育館への移動の時など、短期大学の警備員との連携 ・避難訓練を毎月実施 ・東住吉区役所の方による安全講習会の実施 ・消防署の方による消化訓練や通報訓練の実施
3 地域との連携と 子育て支援の充実	B	園庭開放や未就園児向けおやこ教室を開催し、園のHPやタウン誌、情報誌で周知を行ったが、参加人数の増加にはつながっていない。東住吉区役所の方による交通安全指導や不審者対応の教室を開催。

4 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

結果	理由
A	・自己点検、自己評価の実施で保育の振り返りができた。 ・園外の研修に積極的に参加し、学びの機会を多く持つことができた。 ・多くの実習生を受け入れ、一人一人の学生と丁寧に向き合いながら適切な指導を行い、育成目標に達することができたと思う。 ・登降園時には担任だけでなく各職員が保護者の方とコミュニケーションを取るよう努めた。 ・新型コロナウイルスの5類への移行に合わせて対策を見直し、健康観察・感染症対策に努めた。 ・クラスだよりや園のHPで、園での子どもたちの様子や行事の様子を知らせるようにした。 ・未就園児向けおやこ教室や園庭開放の周知を、HP、地域新聞や情報誌、ポスター掲載、チラシ配布などで行ったが、参加人数の増加にはつながらず、更なる周知の必要を感じる。 ・未就園児やその保護者に声をかけ、コミュニケーションを取り、交流を持つように努めた。

◎「3. 4.」の評価結果の表示方法

A	十分達成されている
B	達成されている
C	取り組まれているが、成果が十分でない
D	取組が不十分である

5. 今後取り組むべき課題

課題	具体的な取組方法
安全管理の意識向上	毎月の避難訓練を通して緊急時における対処法について、今後も職員間で共通認識を持ち理解を深めていくよう努めていく。 園全体の環境整備の点検や確認を行い、事前に怪我を防げるようにしていく。
園のPRと園児数の確保	園の様子をHPにて情報公開し、タウン誌などへの掲載といった広報活動も引き続き行い、更なる周知活動として、SNSを駆使して本園の良さを広めていく努力を行う。 未就園児のおやこ教室や園庭開放・保育室開放などの開催を積極的に行い、地域の方が気軽に園に足を運んでいただけるような環境を引き続き整えていく。

6. 学校関係者の評価（総評）

- 職員間の情報交換・共有が堅実にされており、担任以外の先生にも子どものことをわかってもらえている。
- 先生同士がフランクに思いを話し合える雰囲気、保育者間の連携がしっかりとしているのでとても良い。
- 戸外遊びが多く、子ども達自ら遊びたくなるような基盤ができていて、子ども達が育つ幼稚園である。
- 園の様子が外から見えて、開放感がある。
- 保護者の輪が広がるよう、保護者のリフレッシュタイム（交流の場）を月1回設けてもらえる嬉しい。
- 延長保育や通園バスの有無が園選びのポイントになると思うが、それらを上回る園独自の特徴を伝えていくことが大切だと思う。
- 午前中保育の設定を改善すれば親のパートの時間の確保もでき、プラスになると思う。
- 個性豊かな子ども達を受け入れ、子ども一人一人を大事に対応されていると感じる。
- 実習生を先生方、保護者の方々が温かく見守り大事にしてくださるので、学生の意欲に結びついている。
- 実習生が書く日誌から、先生方の新たな気づきが生まれることは、先生方自身の資質向上に繋がると思う。

7. 公開保育について

実施日時	令和5年11月13日（月） 10時～12時
実施場所	大阪芸術大学附属照ヶ丘幼稚園 保育室
保育者	あやめ組（年中）担当教諭
テーマ	ゲーム遊びを通して「重さ」に興味や関心を持つ 身近な物の重さを知り「重い」「軽い」という感覚遊びを楽しむ
指導助言者	大阪芸術大学短期大学部 保育学科 准教授
参加者	大阪市小学校校長、教諭、大阪府幼稚園・こども園園長、副園長、教諭、職員、育友会会長
総評	保育の進め方やテクニック、惹きつけ方などが素晴らしいと思いました。先生の何気ない行動や声掛けから、子ども達と丁寧に日々を積み重ねてきたのが伝わってきました。教育的で学びを目的としたカリキュラムの大切さや素敵さを改めて感じました。数字や重さに気づき、関心や興味が持てる第一歩になったと思います。楽しく学べる方法を見ることが出来て良かったです。いつもとは違う雰囲気を感じ取った子ども達に寄り添い共感し、失敗を受け入れるという様子を見て包括的なクラス運営ができていると感じました。色々と準備が整った中での活動は子どもにとって幸せな環境だと思います。生活の中での気づきや視点を通して、活動の続きを今後も期待したいと感じられる可能性を秘めた内容だったと思います。